佐久市埋蔵文化財調査報告書　第247集

枇杷坂遺跡群
上久保田向遺跡Ⅷ

長野県佐久市岩村田上久保田向遺跡Ⅷ発掘調査報告書

2017.3

佐久市教育委員会

例　言

1.本書は、株式会社ホンダカーズ長野中央が行う社屋建築に伴う枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡Ⅷの発掘調査報告書である。

2.調 査 原 因 者	株式会社　ホンダカーズ長野中央　代表取締役社長　東澤　勝俊
3.調 査 主 体 者	佐久市教育委員会
4.遺跡名および所在地	枇杷坂遺跡群　上久保田向遺跡Ⅷ(ＫＢＢⅧ) 佐久市岩村田北一丁目23－1　他
5.調査期間及び面積	平成28年8月31日～9月16日(現場発掘作業) 平成28年10月5日～ 平成29年3月(報告書作成作業) 148㎡
6.調 査 担 当 者	冨沢一明

7.本書の編集・執筆は冨沢が行った。

8.本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1.遺構の略記号は、住居址(H)・土坑(D)・溝(M)である。

2.挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。

3.遺構の標高は遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」とした。

4.土層の色調は、1988年版『新版　標準土色帖』に基づいた。

5.挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

地山　焼土　掘方

黒色処理・磨り面・粘土

調査状況(南より)

目　次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

1.経過と立地

2.調査体制

3.調査日誌

4.遺構・遺物の概要

5.標準土層

6.調査の方法

第Ⅱ章　遺構と遺物

1.竪穴住居址

2.土　　坑

3.溝状遺構

4.調査の成果

遺物観察表

写真図版

抄　録

第1図　上久保田向遺跡Ⅷ位置図(1:50000)

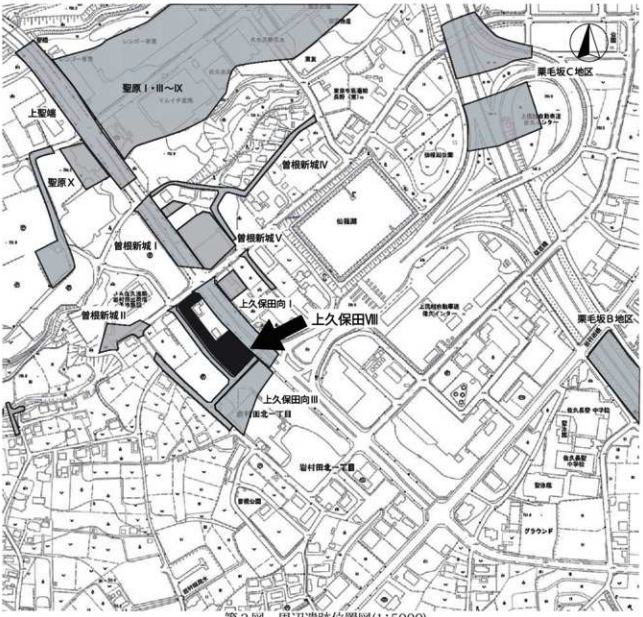
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

1.経過と立地

上久保田向遺跡Ⅷは、佐久市の岩村田北一丁目地籍に所在し、枇杷坂遺跡群の中ほどに位置する。遺跡は、佐久平北部にみられる「田切り地形」の台地上に立地し、台地周辺の海抜は730m前後を測る。

本遺跡の周辺では、数多くの遺跡が調査されている。調査区に接して東西に延びる市道及び区画整理事業は、平成元年～７年度にかけて発掘調査がなされ、古墳時代から古代を中心とした集落跡が発見されている。発見された遺構は竪穴住居や掘立柱建物跡が中心であったが、竪穴住居から古代佐久郡の郷名の一つ「刑部」と記載された墨書土器が発見されている。

今回、遺跡群内で、株式会社ホンダカーズ長野中央により社屋建築の計画がなされ佐久市教育委員会に文化財保護法93条の届出がなされた。当教育委員会では対象地の試掘調査を行い遺構が発見された為、保護協議を行い、遺跡の保護措置がとれない部分のみ、記録保存目的の発掘調査を行うこととなった。



第２図　周辺遺跡位置図(1:5000)

2.調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長　棚澤晴樹
事　務　局	社会教育部長	荻原幸一
	文化振興課長	三石　建
	企　画　幹	小林登志郎
	文化財調査係長	大塚広樹
	文化財調査係	小林眞寿　冨沢一明　上原　学　神津一明　生島修平

調査担当	冨沢一明					
調　査　員	赤羽根篤	甘利隆雄	木内修一	堺　益子	柳澤孝子	大矢志穂
	中澤　登	羽毛田利明	横尾敏雄	依田好行	赤羽根充江	
	岩崎重子	加藤ひろ美	林　まゆみ	堀籠保子	柳澤千賀子	

3.調査日誌

平成28年6月21日　株式会社ホンダカーズ長野中央より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出。

6月23日　長野県教育委員会へ市教育委員会より28佐教文振第1118-2号土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知について(副申)

6月30日　長野県教育委員会より28教文第7-460号にて周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)

8月25日　株式会社ホンダカーズ長野中央と市教育委員会により埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結。

8月31～9月16日
記録保存目的による開発対象地の発掘調査を行う。

9月16日　埋蔵文化財の発見届を佐久警察署に行う。

10月4日　長野県教育委員会より文化財認定がなされる。

4.遺構・遺物の概要

遺　構	竪穴住居址　1軒(平安)	土　坑　1基	溝状遺構　1本
遺　物	土師器・須恵器(坏・甕・壺)	石製品(磨り石)	鉄製品(紡錘車)

5.標準土層

今回の調査地点は南西側に僅かに傾斜する田切台地上で、基本層序は3層に分かれ、Ⅲ層上面が遺構確認面である。確認面深さは地表より50～80cmほどであった。

第Ⅰ層　10YR5/1 褐灰色土
耕作土しまり弱い。

第Ⅱ層　10YR2/1 黒色土
軽石粒を多く含む。

第Ⅲ層　10YR6/8 明黄褐色土
P1層で上部に漸移層あり。

6.調査の方法

遺構調査

住居址は均等に4分割し、 対面する2区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、 床面を精査し、 柱穴・炉・カマド等を適宜分割し、 土層の観察・記録を行い、 最終的に平面の記録を行った。 遺物は分割した各区毎に取り上げ、 床面上の遺物に関しては連続するNoを付け3次元の記録を行い取り上げた。 土坑は長軸方向に沿って2分割し、 半裁により土層の観察・記録を行った後完掘した。 遺物は遺構Noで一括した。 溝址は短辺方向に任意の場所で区分し、 土層を観察・記録した。 遺物は区毎に取り上げた。 遺構外の遺物はグリット毎に取り上げた。

遺構測量

平面図・断面図ともに調査区内に設定した基準杭を利用した遣り方測量により調査担当及び調査員が実施し、 縮尺は1/20を基本とした。

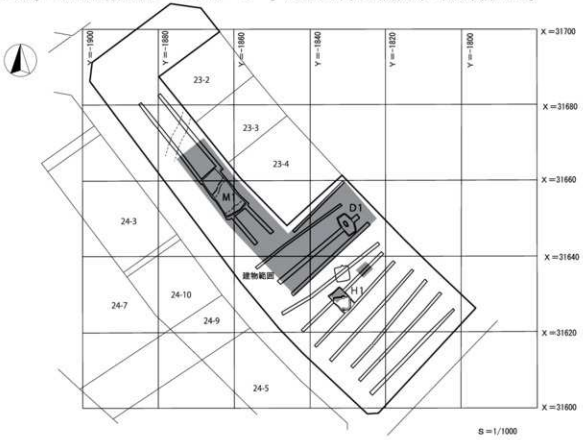
遺構・遺物の整理等

遺物洗浄は竹ブラシを用い、手で行い、室内で自然乾燥させた。注記は白色のポスターカラーにより行い、 薄めたラッカーをその上から塗布した。 遺物接合はセメダインCを使用し、 遺物復元の際の充当材はエポキシ系樹脂を用いた。 遺物実測は手取りで行った。 遺物の保管に際しては報告書を台帳として、 報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、 コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。

図面は遺構を1/40で修正、 遺物を1/1で実測し、 それぞれ仮図版を作成した。

写真・報告書

現場での写真は、 デジタル一眼レフカメラによるRAW画質モードと、 35㎜一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。 遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、 EPSデータ形式で報告書に使用した。 報告書文章と挿図はアドビ社製の「イラストレーター」で作成し、 表についてはマイクロソフト社の「エクセル」で作成した。 写真・拓本はアドビ社製「フォトショップ」 により補正加工を行った。 これらを最終的に「イラストレーター」 により頁単位で編集し、 印刷原稿とした。



第３図　　調査区位置図

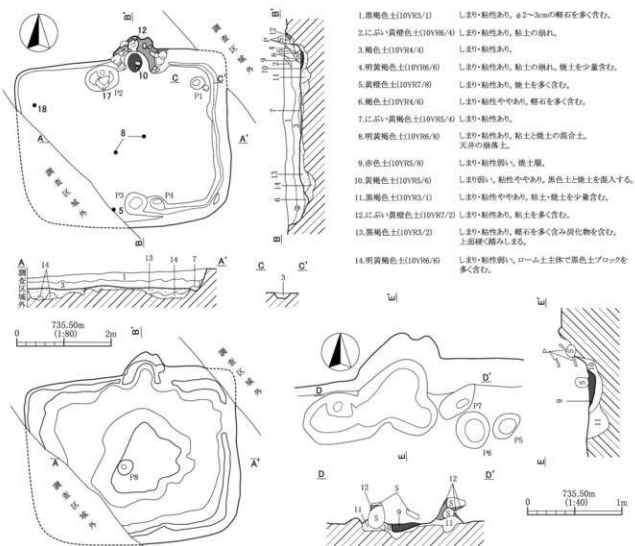
第Ⅱ章　遺構と遺物

1.竪穴住居址

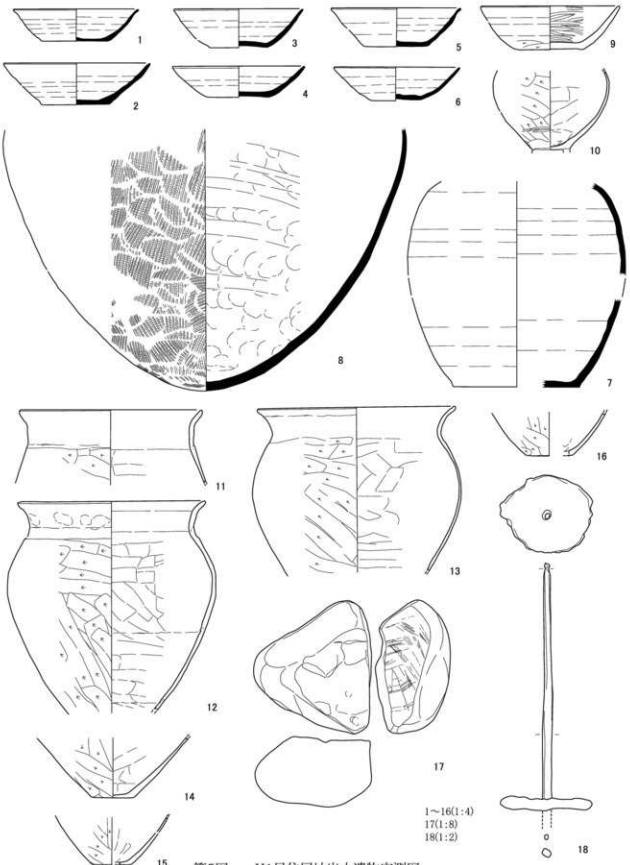
(1) H1号住居址

本址は調査区中央で検出された。形態は方形と考えられる。南北のコーナーが調査区域外となる。規模は、長軸4.04m・短軸3.24mを測る。床面積は検出部分で9.9㎡で、推定で12.06㎡を測る。壁深さは北壁のカマド寄りで最大0.43mを測る。住居主軸方位はNを示す。床は全体に硬質で、全体に貼床が施されていた。検出された壁の東側部分には壁溝が巡っていた。ピットは掘方も含め8か所で検出された。各ピットの規模はP1が径0.30m・深さ0.12m、P2が径0.68m・深さ0.32m、P3が径0.48m・深さ0.15m、P4が径0.32m・深さ0.10m、P5が径0.34m・深さ0.11m、P6が径0.40m・深さ0.12m、P7が径0.42m・深さ0.12m、P8が径0.36m・深さ0.31mを測る。P2はカマド脇にあり、磨りが観察できる台石状の礫(図示17)が出土した。

カマドは北壁中央部に構築されており、煙道部と支脚石が残存していた。袖部は礫と粘土により構築され火床部はよく焼けていた。また、煙道部には土師器甕が煙出として据え付けてあった。住居掘方は住居中央部が一段高く、壁周辺は一段深く掘り込まれていた。



第4図　H1号住居址実側図



第5図　H1号住居址出土遺物実測図

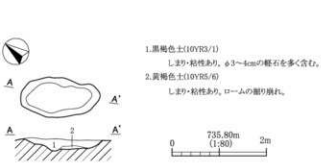
本址からの出土遺物はやや多く18点を図示した。1～6は須恵器坏である。いずれも底部回転糸切離しが行われている。7は須恵器壺であり、肩部に自然釉が確認できる。8は須恵器甕であり、住居址中央の覆土よりまとまって出土した。外面は並行叩きが行われている。9は土師器坏であり、内面にミガキが施されている。底部は回転糸切離しである。10は台付甕の胴部であり、脚と口縁部が欠損する。11～16は土師器甕で、いわゆる「武蔵甕」と呼ばれるタイプの甕である。いずれも胴部はヘラ削りが施されている。17はカマド脇のP2から出土した礫で、一面に磨りの痕跡が確認できる。形状から台石としての使用が考えられる。18は鉄製の紡錘車で床面から出土した。片側の軸を欠損する。

これらの出土遺物から、本址は平安時代前半(9世紀代)の所産と考えられる。

2.土　坑

（1）D1号土坑

本址は調査区北側で検出された。形態は楕円形で、長軸方位はN－42°－Wを示す。規模は東西の長軸1.68m・短軸0.83mで、壁はなだらかに立ち上がり、深さ0.27mを測る。覆土は自然堆積であった。出土遺物は無かった。

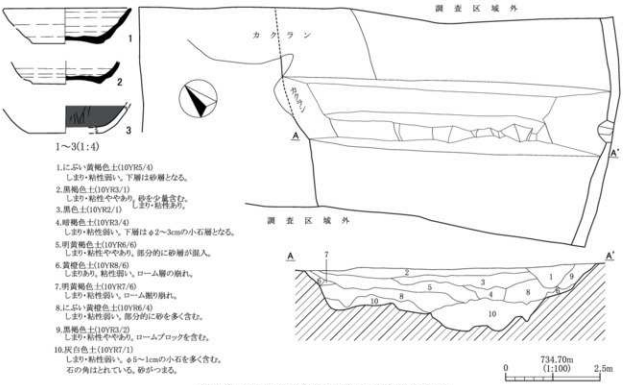


第6図　D1号土坑実測図

3.溝状遺構

（1）M1号溝状遺構

本址は調査区西側で検出された。溝の延びる方向は南北方向と考えられ、規模は幅7.60m・深さ1.76mを測る。覆土は上層の黒色土と、下層の砂が多く混入する層が中心で、溝底面は凹凸が激しかった。遺物は上層の黒色土と4層から多く出土した。図示した遺物は3点で、1と2が須恵器坏、3が内面黒色処理した土師器坏である。



第7図　M1号溝状遺構及び出土遺物実測図

第1表　遺物観察表

H1	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値[ ]残存値< >凡底◆	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生器	坏	13.0	7.0	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅱ Ⅲ Ⅳ区
2	弥生器	坏	(15.5)	7.2	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	回転実測	Ⅰ Ⅳ区・カマド
3	弥生器	坏	(13.5)	6.1	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅰ区
4	弥生器	坏	14.0	6.5	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ Ⅳ区
5	弥生器	坏	(13.7)	6.3	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	
6	弥生器	坏	13.9	5.7	3.6	ロクロナデ　見込み部摩耗	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅳ区
7	弥生器	壺	－	(13.4)	(21.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド・Ⅰ Ⅱ Ⅳ区
8	弥生器	甕	－	－	<27.9>	当て具痕→ヨコナデ	タタキメ	回転実測	Ⅰ～Ⅳ層
9	土師器	坏	(14.7)	7.3	<4.6>	ロクロナデ→ヘラミガキ	ロクロナデ→底部周辺ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区
10	土師器	台付甕	－	－	<9.3>	体部ヘラナデ・ナデ	ヘラケズリ	完全実測	
11	土師器	甕	(19.3)	－	<7.8>	ヘラナデ　口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ　ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ Ⅱ Ⅳ区
12	土師器	甕	19.8	－	<22.2>	口縁ヨコナデ　ハケ目の残るナデ	口縁ヨコナデ　ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区　カマド
13	土師器	甕	(21.0)	－	<17.4>	口縁ヨコナデ　ハケ目の残るナデ	口縁ヨコナデ　ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区　カマド
14	土師器	甕	－	(6.4)	<6.5>	ヘラナデ	体部・底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ・Ⅲ区　カマド
15	土師器	甕	－	(4.2)	<5.1>	ヘラナデ	体部～底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
16	土師器	甕	－	(5.0)	<4.5>	ヘラナデ	体部～底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区

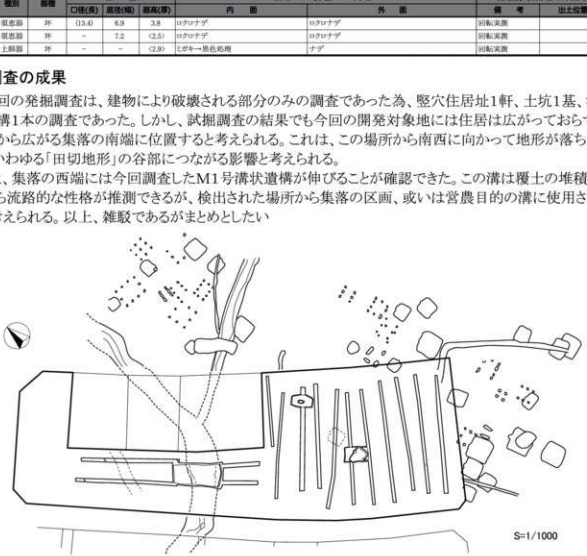
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	内面	外面	備考	出土位置
17	石器	台石	28.5	24.9	15.0				右側にすり面と擦痕あり	
18	鉄製品	鉄鏃茎	<13.1>	<9.5>	<0.5>	20.7g			下図の軸欠損	

M1	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値[ ]残存値< >凡底◆	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生器	坏	(13.4)	6.9	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	
2	弥生器	坏	－	7.2	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	
3	土師器	坏	－	－	<2.9>	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転実測	

4.調査の成果

今回の発掘調査は、建物により破壊される部分のみの調査であった為、竪穴住居址1軒、土坑1基、溝状遺構1本の調査であった。しかし、試掘調査の結果でも今回の開発対象地には住居は広がっておらず北西から広がる集落の南端に位置すると考えられる。これは、この場所から南西に向かって地形が落ち込み、いわゆる「田切地形」の谷部につながる影響と考えられる。

また、集落の西端には今回調査したM1号溝状遺構が伸びることが確認できた。この溝は覆土の堆積状態から流路的な性格が推測できるが、検出された場所から集落の区画、或いは営農目的の溝に使用されとも考えられる。以上、雑駁であるがまとめとしたい



第8図　周辺遺構位置図

H1号住居址

H1号住居址掘方

H1号住居址カマド

H1号住居址カマド構築材

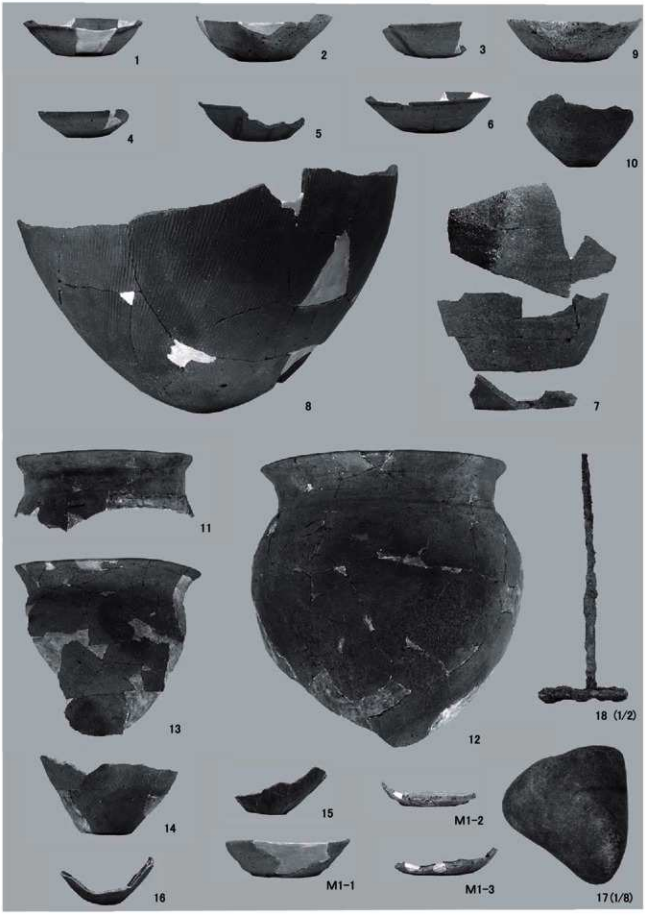
H1号住居址出土遺物(鉄製紡錘車)

D1号土坑

M1号溝状遺構

M1号溝状遺構堆積状況

図版二



報告書抄録

ふりがな	びわざかいせきぐん かみくぼたむかいいせきはち
書名	枇杷坂遺跡群 上久保田向遺跡Ⅷ
副書名	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第247集
編著者名	冨沢 一明
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL0267-68-7321 FAX0267-68-7323
発行年月日	平成29年(2017)3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
びわざかいせきぐん かみくぼたむかい いせきはち 枇杷坂遺跡群 上久保田向遺跡Ⅷ	さくしいわむらだ きたいっちょうめ 佐久市岩村田 北一丁目 23-1他	20217	8	36°17.06	138°28.46	20160831 ～ 20160916	148	社屋建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
枇杷坂遺跡群 上久保田向遺跡Ⅷ	集落址	平安	住居址 1軒 土坑 1基 溝状遺構 1本	土師器・須恵器 石器・鉄製品	

要 約	台地上に展開する古代の集落の一部分を調査した。周辺の調査事例と同様に平安時代の竪穴住居が展開することが確認された。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第247集
枇杷坂遺跡群 上久保田向遺跡Ⅷ
平成29年(2017) 3月
編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化振興課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
℡0267-68-7321
印刷所 キクハラインク有限会社